



キッチンと分別されているか 調べてみました～ごみ質調査～

環境生活課では年1回、ごみ分別状況調査（ごみ質調査）を実施しています。今月は調査結果をお知らせします。

燃やせるごみ

95%が適正

燃やせるごみの適正分別率は95%と高水準を維持しています。残る5%には雑誌やプラマークの付いた容器などの資源物（3・5%）のほか、事業所ごみや衣装ケースといった違反ごみの混入が見られました。

燃やせないごみ

今回の抽出調査では、違反ごみが混入された袋はありませんでした。

プラスチック類

89%が適正

プラスチック類の適正分別率は89%と、以前の80%前後から向上していますが、残る11%には硬質プラ（6・4%）などのほか、カミソリや点滴用具といった危険な医療廃棄物の混入も見られました。



事業所ごみは収集しません



雑誌は資源です

3.5%は資源でした

《改善ポイント》

雑誌などの紙資源やプラマーク付き容器を正しく分別し、それ以外を燃やせるごみとして出しましょう。

《改善ポイント》

プラマークの付いたものは汚れを軽く落としてから入れ、マークのない硬いプラスチックは燃やせるごみへ。また、手作業で選別しているため、刃物などの危険物は絶対に入れないでください。



カミソリは刃を紙に包んで
金属ごみへ



食べたままの容器と吸い殻

この容器はペットボトルです

汲み取りトイレ、浄化槽 利用の皆さんへ

収集コストの上昇に伴い、令和8年4月から、し尿・浄化槽汚泥の汲取り料金が、1円あたり8円から11円（税別）に改定されます。



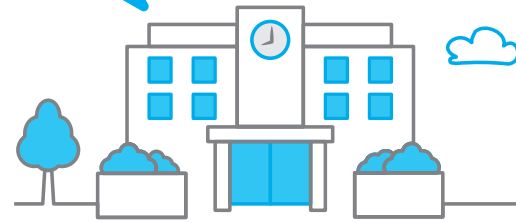
適正に分別されていないごみ

年間約66トも分別されず、無駄に焼却されていることになります。資源物を正しく分別することが大切です。また、今回の調査から、分別の有無が二極化していることが分かりました。自分のごみが収集されず残っていた場合は、今一度、分別ルールを確認するか、環境生活課までお問い合わせください。

栗山学び隊 /

栗山高校

Vol. 69



介護福祉学校と栗山高校を隔月で取材!

3年間の総まとめ

かみずみ ゆあ 金泉 結空さん（3年）

栗山高校は、介護福祉学校と連携した独自の教科「栗山と福祉」を認定科目とし、3年間福祉について学びます。この授業を通して、介護の道に進むことを決めた学生を取材しました。

栗山と福祉で学んだこと

札幌市出身で小学3年生から野球をしていた金泉結空さんは、高校生になっても野球がしたいと思い、女子硬式野球部のある栗山高校に入学しました。金泉さんは、「栗山と福祉」という授業を受けていくうちに介護の仕事に興味を持ち、介護福祉士を目指すことにしたそうです。

「この授業で、特別養護老人ホームに行きました。最初は緊張していましたが、利用者の方と話していくうちにだんだん気持ちがあがっていき、自分から思い切って質問してみたら、会話が弾みました。居心地の良い雰囲気を作るには、腰を下ろして相手の目線に高さを合わせることもや

話のスピードを合わせることが大切だと思いました」と話してくれた金泉さん。

また、徘徊した認知症高齢者の発見や声かけ、適切な接し方などを学ぶ模擬訓練にも参加。「訓練を通して、高齢者だから、障がい者だからといったくくりの考え方ではなく、相手の方一人ひとりに合った対応を心がけることの大切さを学びました」と話します。

介護技術コンテストに初出場

昨年8月、当別町で開催された第10回北海道地区介護技術コンテストに、同級生3人で出場しました。栗山高校としては、初出場です。「車いすの人を介護すると聞かされていたのですが、当日になって、杖をつきながら歩ける方だと知り、パニックになりました。観客がたくさんいて、緊張しましたが、臨機応変に対応することができ、奨励賞を受賞しました。とてもうれしかったです」と話してくれました。

将来の夢

4月から介護福祉学校へ進学する金泉さん。「介護福祉学校でしっかり勉強をして、介護福祉士の資格を取りたいです」と意気込みました。たくさんさんの経験を積み重ねる中で、どんな介護福祉士へと成長していくのか今から楽しみです。



第10回北海道地区高校生介護技術コンテスト